

【基本情報】

教 科	国語	学 年	2 年	教科書	精選現代文B 東京書籍
科 目	現代文B	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	新版四訂 新訂総合国語便覧（第一学習社）
科 目 概 要	国語総合の現代文分野で学習した内容をさらに深く理解し、読解力を定着させることを目的としています。特に評論と小説を中心とした近代以降の様々な文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を深めます。				
到 達 目 標	近代以降の様々な文章を、目的や表現にそって的確に読み取り、論理的に思考することによって、筆者の主張や登場人物の心情などを把握・理解できるようになることが目標です。（大学入学共通テストレベルで70%以上得点できることを目標とします。）				
授業の進め方	教科書を基本としますが、効率性を高めるために、内容に応じて学習プリントも使用します。本文の読解・説明が中心となりますが、指名して発問への解答を求めます。漢字・語彙・文法事項などの習得のため、単元ごとに確認テストを実施します。				
留 意 事 項	教科書、副教材（プリント）、国語辞典を忘れずに準備して下さい。 ※国語辞典は、初出の語句や重要な表現について授業中に全員で調べる事があるので、対応できるよう必ず用意しておいて下さい。 ※プリントは、補助や演習が中心となりますから、ノートは各自が工夫して作成・記録し、大事なことを書き取れるようにして下さい。疑問や意見があれば、積極的に発言するようにしましょう。				
家庭 学 習	上記の形態で授業を進めますが、予習・家庭学習が必須です。予習・家庭学習の習慣化をはかる意味で、ノート点検を臨時に実施します。予習では、①「本文を音読」し、②ノートに「予習欄」を作成して、③「新出漢字」・「語句」の読み方や意味を「国語辞典」で調べ、④単元毎の「学習の手引き」「表現と言語活動」「漢字と語彙」を解答し、まとめておきましょう。 一日あたり、どれくらいの時間がかかるかは各自で異なりますが、自分の家庭学習計画に合わせて「予習→授業→復習」のサイクルを身につけることが、学力向上の早道です。疑問点や不明な点については、その日のうちに教科担任に質問し、家庭でその確認をするといった姿勢で取り組んで下さい。また、日頃から「朝の読書」時間を利用して、多くの文章に触れ、豊かな教養を身につけていきましょう。				
備 考	文章を的確に読解し思考を深めていくには、「語彙力」が欠かせません。しかし、授業で扱う教材だけでは「全ての語彙を学習する」ことは不可能です。「朝の読書」時間等を利用して読書に親しみ、小説やエッセイだけではなく社会や科学の分野など、より多くの文章に触れ、語彙を増やし、様々な教養を身につけていきましょう。そのためには、早めに登校するなど、自発的な姿勢が求められます。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A 関心・意欲・態度.	国語や言語文化に関する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりしようとする。	10%	授業や課題に進んで取り組めたか。課題を期限内に提出できたか。
B 話す・聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	10%	目的や課題に応じて収集した様々な情報を分析し、自分の考えを効果的に表現できたか。
C 書く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	15%	目的や課題に応じて収集した様々な情報を分析し、自分の表現や推敲に役立てられたか。
D 読む能力	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする	15%	文章の構成や展開、要旨を的確に捉えることができたか。
E 知識・理解	表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身に付けている。	50%	語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにできたか。

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
評論（1） 小説（1） 評論（2） 前期中間考査	1.5	世界をつくり替えるために ミロのヴィーナス 山月記 相手依存の自己規定	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・文章を読んで、構成、展開、要旨を的確に捉え、その論理性を評価する。 ・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心理の描写などを的確に捉え、表現を味わう。 ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、自分の表現や推敲に役立てる。
評論（2） 詩歌 評論（3） 前期期末考査	1.6	科学的発見とは 見えない季節 竹 永訣の朝 おじいさんのランプ 書物の近代 読み書きする身体 文章を読み書きするために	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・文章を読んで、構成、展開、要旨を的確に捉え、その論理性を評価する。 ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体の修辞などの表現上の特色を捉える。 ・文章を読んで、構成、展開、要旨を的確に捉え、その論理性を評価する。
評論（3） 小説（4） 評論（4） 後期中間考査	1.5	消費されるスポーツ こころ 「である」ことと「する」こと	○ ○ ○		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・文章を読んで、批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりする。 ・文章を読んで、批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりする。 ・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心理の描写などを的確に捉え、表現を味わう。
短歌と俳句 評論（4） 評論（5） 後期期末考査 言語活動編	1.6	短歌抄 俳句抄 人間の運命と科学 日本人の美意識 論理的文章を読んで意見文を書く 図表から情報を読み取って論じる	○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心理の描写などを的確に捉え、表現を味わう。 ・文章を読んで、批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりする。 ・文章を読んで、批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりする。 ・目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理し、自分の考えを効果的に表現する。

【基本情况】

教 科	国 語	学 年	2 年	教科書	精選古典B 新版 東京書籍
科 目	古 典 B	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	新版五訂 完全マスター古典文法 (第一学習社) 基礎から解釈へ 漢文必携 四訂版 (桐原書店) 新版四訂 新訂総合国語便覧 (第一学習社)
科 目 概 要	国語総合の古典分野で学習した内容をさらに深く理解し、定着させることを目的としています。そのために、古文・漢文の両分野において、文法事項の体系的な学習を踏まえた読解と反復演習を行います。				
到 達 目 標	古文では、用言および助動詞の総復習と、敬語および助詞の理解を目指します。 漢文では、句法の全般的な理解を目指します。 その上で、古文・漢文とも語彙力を増やすことで文章読解が出来るようになることが目標です。 (共通テストレベルで70%以上得点できることを目標とします。)				
授業の進め方	教科書の本文、現代語訳、重要文法事項を取り入れたプリントを使用します。 要点を絞った説明が中心となります。指名して現代語訳や発問への解答を求めます。 学習事項の習得状況を把握するため、古文・漢文の両分野において随時確認テストを実施します。				
留 意 事 項	教科書、ノート、副教材(プリント含む)を忘れずに準備してください。 予習をして臨んでください。授業内容の理解が格段に高まります。 疑問(たとえば現代語訳の別解など)があれば、授業時間内や授業後に質問・発言することが理解の深化につながります。				
家庭 学 習	プリントを参考にしながら、自分自身の「ノート作り」を心がけてください。 【予習】古文: ①「単語」および「文法事項」を調べ、②脚注も参考にしながら自分の力で「口語訳」を作り上げる。 漢文: ①「書き下し文」を作り、②脚注を参考にしながら自分の力で「現代語訳」を作り上げる。 【復習】古文・漢文とも、その日の学習内容の確認をする。				
備 考	試験と名のつくもの[共通テスト、定期考査など]はほとんど「制限時間」が設けられています。 限られた時間内に問題を解くには、単に「知識がある」だけでなく「その知識をどれだけ早く取り出せるか」が求められます。 そこで必要なのが反復練習です。知識は、一度解いた問題を繰り返し振りかえることで定着します。 また、古文の語彙力は、授業で扱う教材だけで身につけるのは不可能ですので、古文単語テストを継続して実施します。				

【評価の方法】

観 点	ポ イ ン ト	割 合	評 価 項 目
A. 関心・意欲・態度	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとする。	10%	授業や課題に進んで取り組めたか。課題を期限内に提出できたか。
B. 話す・聞く能力			
C. 書く能力			
D. 読む能力	古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにする。	20%	人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉えることができたか。
E. 知識・理解	古典の理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身に付けている。	70%	用いられている語句の意味、用法、文の構造などを理解できたか。

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
古文 説話1 物語1 隨筆1 漢文 小話 前期中間考查	1 6	宇治拾遺物語 小野篁、公才のこと 古今著聞集 能は歌詠み 伊勢物語 初冠、渚の院 枕草子 九月ばかり 雪のいと高う降りたるを 先従隗始、不死之薬、創業守成	○			○	○	・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。
			○			○	○	
			○			○	○	
			○			○	○	・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
古文 物語2 隨筆2 漢文 詩1 前期期末考查	1 6	源氏物語 光源氏の誕生、若紫 徒然草 家居のつきづきしく 花は盛りに 近体詩 宿建徳江、江南春、黃鶴樓	○			○	○	・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。
			○			○	○	
			○			○	○	・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
古文 軍記物語 日記1 漢文 史記1 後期中間考查	1 6	平家物語 忠度の都落ち 更級日記 門出 項羽 鴻門之会、四面楚歌 項王自刎	○			○	○	・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
			○			○	○	
			○			○	○	・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国と中国の文化との関係について理解を深める。
古文 物語2 漢文 文1 古文 修辞 後期期末考查	1 6	大鏡 花山天皇の出家 三船の才 漁夫辞 万葉集、古今和歌集、新古今和歌集	○			○	○	・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
			○			○	○	
								・古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国と中国の文化との関係について理解を深める。
								・既習事項の復習

【基本情報】

教 科	地歴公民科	学 年	2年	教科書	日本史A（山川出版社）
科 目	日本史A	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	図説 日本史通覧（帝国書院） 要点整理ゼミナール日本史（浜島書店）
科 目 概 要	1 近・現代における我が国の歴史の展開について、政治や経済、社会、文化、国際環境など各時代の特色及びその変遷に關わる総合的な考察について取り上げていく。 2 学習を通して歴史的思考力を育成し、我が国の伝統と文化についての認識を深めていくとともに、国際社会の中で生きていく思考力・判断力・理解力を養っていく。				
到 達 目 標	1 近・現代における歴史の流れを理解できる。 2 近・現代における日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 3 近・現代における日本史に關わる地図・資料を読み取ることができる。				
授業の進め方	1 基本的に、教科書、資料集、プリント等を使いながら重要事項の説明及び板書を中心に講義形式の授業を行う。 2 質問及び歴史に關わる教材の提供を通して、興味や関心を深めていく。 3 アクティブラーニングを念頭において、グループ形式でのレポートを作成する。				
留 意 事 項	1 授業に必要な教材（教科書、資料集、プリントを綴じるファイル等）は忘れずに毎時間準備する。 2 積極的に授業に参加する。 3 提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。				
家庭学習	1 教科書を読み進める家庭学習を推奨する。 2 参考書、問題集等を復習用として活用していくことを薦める。				
備 考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・歴史の展開に対する関心と、課題意識を高め、意欲的に追求しようとしているか。	10%	・授業態度及び授業プリントを丁寧に仕上げているか、隨時点検し、評価する。
B. 思考・判断・表現	・グループ内で協力して、思考・判断・表現の能力を駆使して良いレポート作成ができるか。	10%	・レポート作成において、思考・判断・表現に関する観点を設け、評価する。
C. 資料活用の技能	・レポート作成を通して、資料・情報を収集活用し、歴史的事象を追求する方法を身につけられるか。	10%	・レポート作成において、資料を上手に用いて完成できたかを評価する。
D. 知識・理解	・基本的な事柄を、世界史的視野にたって総合的に理解し、その知識を身につけているか。	70%	・定期考査において、授業で学習した基礎・基本事項の理解度を評価する。

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1編 近代日本の形成と19世紀の社会	25						・幕末から明治にかけての歴史の流れを理解できる。 ・幕末から明治にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。
第1章 国際関係の変化と幕藩体制の動搖		・外国船の来航と海防策 ・幕藩体制の動搖と幕政・藩政改革	○	○	○	○	・幕末から明治期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第2章 明治維新と近代国家の形成		・ペリーの来航と開国 ・幕末の政治情勢 ・明治新政府の成立 ・近代化政策の展開 ・岩倉使節団と国内の政治情勢 ・国際関係と対外政策 ・自由民権運動の展開 ・立憲政治の成立 ・条約改正と東アジアの情勢 ・日清戦争と日露戦争 ・台湾と韓国併合 ・明治の文化	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			
第3章 国際関係の推移と近代産業の成立							
第2編 近代国家のあゆみと国際関係	25						・大正から昭和前期にかけての歴史の流れを理解できる。 ・大正から昭和前期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。
第1章 第一次世界大戦と政党政治の展開		・政党勢力の伸張と大正政変 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制と民族運動 ・政党政治の展開 ・大戦景気と産業構造の変化 ・社会運動の高揚と大衆文化	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○			・大正から昭和前期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第2章 第二次世界大戦をめぐる国際情勢と日本		・協調外交と昭和恐慌 ・満州事変と五・一五事件 ・日中戦争 ・第二次世界大戦と日本 ・太平洋戦争	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
第3編 第二次世界大戦後の日本と世界	14						・戦後の歴史の流れを理解できる。 ・戦後の日本を取り巻く国際情勢を考察できる。
第1章 戦後政治の動向と国際社会		・占領と改革 ・日本国憲法の制定 ・労働運動の高揚と占領政策の転換 ・戦後の国民生活と文化 ・戦後の国際情勢と日本の独立	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			・戦後から現代までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第2章 経済の発展と国民生活		・国際社会への復帰と日米新安保条約 ・高度経済成長期の日本 ・低成長から経済大国へ	○ ○ ○	○ ○ ○			
第3章 現代の日本と世界		・冷戦の終結と昭和の終わり ・55年体制の崩壊と経済の停滞 ・現在の世界と日本	○ ○ ○	○ ○ ○			

【基本情報】

教 科	地理歴史	学 年	2年	教科書	高等学校新地理A（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院）
科 目	地理A	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	新詳地理資料COMPLETE 2020（帝国書院）
科 目 概 要	「地理A」は、グローバル化の進展、国際情勢や地球環境の変化などに伴う現代社会が抱える諸課題と、生活圏などの地域にみられる諸課題を地理的に考察する科目です。				
到 達 目 標	現代社会の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景・日常生活との関連をふまえて考察し、地理的認識を養うとともに地理的な見方や考え方などを身につける。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・資源・産業について学習するとともに、さまざまな地図の読図や作図などの作業的・体験的な学習によって地理的技能を身につけます。 ・授業は講義形式で行いますが、効率的にすすめるために毎回ワークシートを中心に進めていきます。その際、教科書・資料集・地図帳を使って調べてもらったり、白地図を使って作業をしてもらうことがあります。 ・毎回、必ず教科書・資料集・地図帳・ワークシートを忘れないようにして下さい。 				
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の際に配布されるワークシートをファイルに保存し、ノート代わりに使用すること。ワークシートは答えの穴埋めだけでなく、後から見て分かりやすいように、授業で説明した内容なども空きスペースにメモしておくこと。 ・板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けをします。 ・忘れ物はしないこと。忘れ物がある場合には事前に申し出ること。 ・提出物の期限はしっかりと守ること。期限に遅れた場合、減点もしくは0点になる場合があります。 ・定期考査において、漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して学習するようにして下さい。 ・教師の発問に対する答えや質問など、積極的に授業に参加すること。 				
家 庭 学 習	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは授業を大切にし、毎回の授業の中できちんと内容を理解できるように心がけて下さい。その上で理解が不足していたと思われる分野については、教科書を読むなどの家庭学習で補っておいて下さい。また、定期考査に向けてはしっかり学習して臨んで下さい。 				
備 考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目			
			A	B	C	D
A. 関心・意欲・態度	・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を持っているか。	20%				
B. 思考・判断・表現	・現代世界の地理的事象から課題を見いだしそれを系統地理的・地誌的に考察することができたか。	30%				
C. 資料活用の技能	・地図や統計、画像など地域に関する諸資料から情報を読み取ったり、図表などにまとめたりできたか。	20%				
D. 知識・理解	・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解しているか。	30%				

【年間評価】

单 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1部 世界の諸地域の姿と地球的課題 1章 地球儀からとらえる現代社会	10	<ul style="list-style-type: none"> ・球体としての地球、季節と時差、地球儀と主な図法による世界地図、現代の地図を学習する。 ・国家の3要素・国境、日本と外国との関係、国家間の結びつき・国際組織、日本と外国との間の領有権問題などについて学習する。 ・資料を用いながら、交通・インターネット・貿易の構造について学習する。 ・都市観光やエコツーリズム、農村観光、観光を軸とした国際的な人々の 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる図法の世界地図の比較学習を通じてさまざまな世界地図を場面に応じて適切に扱える技能を身につける。 ・国境の意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響などを考察できるようにする。 ・地域間の結びつきやその変化、現代の特質を理解し、航空路線図や写真などの読み取りを通じて地理的技能を養う。 ・観光という視点から地域や国家間のつながりを理解し、観光を題材に地理学習への興味・関心を高める。

		移動について学習する。			
2章 人間生活をとりまく環境	12	<ul style="list-style-type: none"> 世界の大地形について、形成・分布の特色・地下資源との関係について世界的な視野から学習する。また、平野の小地形を学習する。 大気の大循環と気候の地域性、世界の気候区分、各気候帯・気候地域の自然環境の特色とそこで営まれる生産活動を世界的な視野から学習する。 世界の農業・工業の発達と特色、経済活動のグローバル化、民族・言語・宗教について学習する。 	○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 地形・気候環境が人々の生活に及ぼす影響を理解できる。 経済と文化における地理的環境や歴史的背景の影響について理解できる。 	
3章 世界の諸地域の生活・文化	24	<ul style="list-style-type: none"> 東・東南・南アジアの自然環境の特色、各地域の宗教と言語、社会と産業の特色について学習する。 西・中央アジア、北アフリカについて、イスラム教、乾燥気候、石油資源の開発、民族と文化を中心に学習する。 サハラ以南のアフリカについて、自然環境、植民地支配の歴史、産業の特色を学習する。 ヨーロッパ・ロシアの自然環境、生活と文化、言語と宗教、EUと経済の特色について学習する。 アングロ・ラテンアメリカの歴史・自然環境・生活・文化・産業について学習する。 オセアニア（オーストラリア・ニュージーランド）の生活・文化について学習する。 	○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 東・東南・南アジアの文化の多様性、環境と生活・産業の関わり、経済発展の要因を理解し、また日本との文化的・経済的な関わりを考察できるようにする。 西・中央アジア、北アフリカの宗教や自然環境、資源開発と人々の暮らしとの関連を理解できる。 サハラ以南のアフリカの経済や民族紛争に歴史的背景があることを理解し、経済発展を始めたアフリカと日本のこれからの関係について考察できるようにする。 ヨーロッパが文化的統一性をもちながらも各地の環境に根ざした多様な生活・文化を有することを理解し、EU統合による各地域の変化を捉えさせ、問題点を考察できるようにする。 アングロ・ラテンアメリカの自然環境や資源、植民地としての歴史などが多様な文化・産業のありように結びつき、地域性をつくりだしていることを理解し、日本の生活・文化との共通点・異質点を考察できるようにする。 オセアニアの自然環境と生活との関連を理解し、同じ海に囲まれた国である日本との違いを考察できるようにする。 	
4章 地球的課題と私たち	10	<ul style="list-style-type: none"> 酸性雨・オゾン破壊・地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化について学習する。 資源・エネルギーの利用・消費・確保と課題について学習する。 人口問題・食料問題について学習する。 人口集中と都市問題の発生、途上国での都市問題、先進国での都市問題について学習する。 	○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題は人類が地球的視野で取り組むべき問題であること、また課題には地域性があることに気づくことができる。 資源の偏在性・有限性・消費における地域格差を理解し、持続可能な開発と国際協力の必要性、日本の課題について考察できるようにする。 途上国と先進国では問題が異なることを理解し、人口問題、食料問題、資源・エネルギー問題等の相互の関連性を理解・考察できるようにする。 人口集中によって生じる諸問題、途上国と先進国間の違いを理解し、解決の方策や課題を考察できるようにする。 	
第2部 身近な地域の課題 1章 身近にあるさまざまな地図	2	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの地図を集め、地図を用いた情報伝達の方法や、地理情報の電子化について学習する。 地形図の読み方について基礎的知識を学習する。 	○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 地図の有用性を理解し、地理空間情報を扱う技能を養う。 さまざまな地形図の読み方の技能を養う。 	
2章 日本の自然環境と防災	4	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地形・気候などの成り立ちと特徴、土地利用や特徴について学習する。 日本の火山災害、豪雨・台風の災害、地震災害、津波・高潮の災害について、事例学習を通じて大観的に学習する。 	◎ ◎ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 日本の自然環境や、人間生活と自然災害との関わりについて理解できる。 災害の特徴や地域性、防災への取り組み方や課題を理解し、身近な生活圏の防災について考えられるようにする。 	
3章 身近な地域の課題と地域調査	2	地域調査の手順、利用できる統計、聞き取り等の諸調査の方法と着眼点、分析・まとめ・発表の方法を学習する。	◎ ◎ ○ ○	地域調査を通じて、身近な地域の地理的諸課題を見いだせるようにする。	

【基本情報】

教 科	地歴公民科	学 年	2年	教科書	高等学校 改訂版 現代社会（第一学習社）
科 目	現代社会	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	新版 最新 現代社会資料集 2020（第一学習社） テオーリア 最新 倫理資料集（第一学習社）完全MASTER 倫理問題集 改訂版4ステージ演習ノート（数研出版）
科 目 概 要	1. 現代の社会と人間についての理解を深める。 2. 人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養う。 3. 現代社会の基本的な問題について主体的に考察する基礎を養う。 4. 良識ある公民として必要な能力と態度を養う。				
到 達 目 標	1. 現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を探求する。 2. 人間としての在り方生き方にかかわる基本的事柄や、学び方を理解し、その知識を身につける。 3. 現代社会にかかわる基本的事柄や、学び方を理解し、その知識を身につける。 4. 良識ある公民としての知識を身につけ、様々な課題に対して自分の意見が持てるようになる。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・前期を政治的・経済的課題を2単位で学習し、後期は倫理的な課題を2単位で学習します。 ・身近な課題を提供することで、現代社会や人間についての興味や関心を深めていきます。 ・基本的な要点についての説明を行うとともに、グループや個人での調べ学習もおこないます。 ・見学旅行前後の平和学習での班による話し合いや、資料を活用した研究により、協同的な学習もおこないます。 ・平和学習における壁新聞づくりや感想文などにより、学んだことや考えたことを表現する場をつくります。 				
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な教材（教科書、資料集、ノート、プリント、問題集等、プリントをはさめるファイル）は忘れずに準備すること。 ・積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。 ・平和学習では、班員と協力して研究を深めること。 				
家庭 学 習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読むという予習を推奨します。 ・問題集を解くという復習を推奨します。 ・新聞を読む、ニュースを見るという家庭学習を推奨します。 				
備 考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に探求心を持ち、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて、参加、協力する態度を身に付けたか。	30%	・ノート、レポート、授業態度、平和学習の様子、提出物等により評価する。
B. 思考・判断・表現	・現代社会の基本問題と人間にかかわる事柄について多面的・多角的に考察し、公正に判断できたか。	20%	・定期試験・レポート等により評価する。
C. 資料活用の技能	・現代社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料から有効な情報を適切に選択し、効果的に活用できたか。	20%	・定期試験、レポート、平和学習の壁新聞等により評価する。
D. 知識・理解	・現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的事項や、学び方を理解し、その知識を身につけたか。	30%	・定期試験により評価する。

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
(政治分野) 第1編 私たちの生きる社会	11	第1章 地球環境問題 第2章 資源・エネルギー問題 第3章 科学技術の発達と生命倫理 第4章 高度情報社会と私たちの生活	◎	○	◎	○	・現代社会の様々な諸課題に対する関心を高め、それぞれの課題を考察することを通して、幸福、正義、公正など社会の在り方を考察する基盤を身につける。
前期中間考查	1			◎	◎	◎	
第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方	11	第2章 個人の尊厳と法の支配 第3章 現代の民主政治と政治参加の意義	○	○	○	○	・基本的人権・法の支配・民主政治など、民主社会についての基本的な事項を学び、現代社会に生きる人間としての自覚を持つ。
前期期末考查	1			◎	◎	◎	
	5	第4章 国際政治の動向と日本の役割					・国際政治にかかわる基本的な事柄を理解し、国際人としての知識を身につける
(経済分野)	6	第5章 現代の経済社会と私たちの生活	◎	○	◎	○	・現代の経済政治にかかわる基本的な事柄を理解し、知識を身に付ける。
	6	第6章 国際経済の動向と日本の役割	○	◎	○	○	・国際経済のしくみを理解し、国際社会で生きる知識を身につける。
後期期末考查	1			◎	◎	◎	
第3編 ともに生きる社会をめざして	3		◎	○	○	○	・これまでの学習を基礎に、社会的事象を総合的に考察することができる。
(倫理分野)	7	第1章 現代に生きる青年	◎	○	○		
第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方	7	第7章 現代に生きる倫理	○	○	○		
後期期末考查	1			◎	◎	◎	
	5	第7章 現代に生きる倫理	○	○	○		

【基本情報】

教 科	地理・歴史	学 年	2年後期	教科書	世界史B（実教出版社）
科 目	世界史B	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）
科 目 概 要	1年次で学習した「世界史A」の内容を踏まえつつ、より大きく幅広い視点で世界の歴史の枠組みと展開を、各時代、各地域の重要な事項を中心に学んで行きます。大学受験に対応できる内容で進めていきます。				
到 達 目 標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することにより、歴史的思考力を養います。また、大学入学共通テストにおいて、少なくとも7割以上得点できる力を身につけ、大学入試にも対応できるようにします。				
授業の進め方	①世界の歴史の基本的事項・事柄を中心としながら、世界史Aよりも詳しい事項を補足しながら触れていきます。 ②授業は講義形式で行いますが、効率的に進めていくために、毎回ワークシートを中心に進めていきます。板書事項は専用のワークシートに記入するようにしてください。 ③資料を使って調べてもらったり、白地図を使って作業をしてもらうことがあります。また、班活動によるAL（アクティブラーニング）型学習を実施することもあります。ALの活動や教師の発問に対する応答や質問など、積極的に授業に参加すること。 ④地域ごとの“タテの流れ”、時代ごとの“ヨコのつながり”や“地理的な感覚”を意識して授業を行います。また、出来るだけ毎授業毎にセンター試験形式・私大入試型の問題演習を行います。				
留 意 事 項	① ALの活動や教師の発問に対する応答や質問など、積極的に授業に参加すること。 ② 配布される「専用ファイル」にワークシートを保存し、ノート代わりに利用すること。 ワークシートは答えの穴埋めだけに終始せず、全体的に捉えて利用すること ③ 板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けをします。 ④ 忘れ物は絶対にしないこと。もし、忘れ物がある場合には、事前に申し出ること。 ⑤ 提出物の期限はしっかり守ること。期限に遅れた場合、減点もしくは0点扱いになる場合があります。 ⑥ 定期考査において、漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して学習するようにして下さい。				
家 庭 学 習	効率よく授業を進めるために、課題が出される場合があります。課題をやってこないとALなどの学習活動に支障がきたす場合がありますので、課題がある場合は、必ず行ってきてください。 <「世界史B」を利用して大学受験をする人> ①必ず「世界史用語集」を書店で購入してください。授業や参考書などで不明な語句が出てきた場合は用語集を使って調べる習慣をつけてください。 ②1年次の「世界史A」で学習した内容を含めて、それまで学習した範囲を教科書・ワークシートを使ってひと通り振り返りながら、確認していくこと。その上でしっかりと基本的事項を定着させ模擬試験に対応できるようにすること。 ③世界史は「暗記がすべて」ではありません。歴史的な流れや前後の関係を理解することで全体が見えてきます。そのためには興味を持って、何事も深く考察ようにし、単なる語句の暗記にとどまらないようにしてください。				
備 考	◆学期末・学年末の評定については、上記の4観点を100点法で換算し、総合ポイントの合計で概ね次のように5段階で出します。 85ポイント以上=「5」 70ポイント以上=「4」 45ポイント以上=「3」 30ポイント以上=「2」 30ポイント未満=「1」				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	10%	主にワークシートの作成・提出状況で評価します。 (ワークシートの作成の仕方及び評価の観点は授業の中で説明します。)
B. 思考・判断・表現	世界の歴史を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	5%	「思考・判断・表現」に関わる課題を出します。班ごとに作業し課題を提出してもらいます。 (くわしい評価の観点は授業の中で説明します。)
C. 資料活用能力	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	5%	地図やグラフなどを用いた「資料活用能力」に関わる課題を出します。
D. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	80%	原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関わる問題を出題します。

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
・オリエンテーション ・序章 先史の世界	2	人類の進化、農耕・牧畜の開始による文明の形成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			世界の歴史に関する基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。
・第1章 オリエントと地中海世界 1. 古代オリエント世界 2. ギリシア世界 3. ローマ世界	10	オリエント文明の盛衰、イラン人の活動 エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴 都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質					
・第2章 アジア・アメリカの古代文明 1. インドの古典文明 2. 東南アジアの諸文明	6	インド文明の成立と発展、南アジア世界の形成過程 南アジア世界の国家形成の過程					
3. 中国の古典文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 1. 草原の遊牧民とオアシスの定住民 2. 北方民族の活動と中国の分裂 3. 東アジア文化圏の形成	9	中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向 遊牧民とその国家の動向、オアシス民の活動 北方遊牧民族の動向、中国の分裂と動乱の時代 唐帝国の国家制度や文化、東アジアの国家体制の整備					
第4章 イスラーム世界の形成と発展 1. イスラーム世界の形成 2. イスラーム世界の発展 3. インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 4. イスラーム文明の発展	7	イスラーム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展 イスラーム帝国の形成 イスラーム世界の拡大過程① イスラーム世界の拡大過程② イスラーム文明の特質とその影響、学問と文化活動の内容					
第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1. 西ヨーロッパ世界の成立 2. 東ヨーロッパ世界の成立 3. 西ヨーロッパ中世世界の変容 4. 西ヨーロッパの中世文化	9	ゲルマン人移動後の西ヨーロッパ、封建社会が形成 ビザンツ帝国の繁栄と社会や文化、周辺諸民族の自立の過程 十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向 ヨーロッパ中世文化の特色	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			世界の歴史に関する基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。
第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 1. トルコ化とイスラーム化の進展 2. 東アジア諸地域の自立化 3. モンゴルの大帝国	6	内陸アジア世界のトルコ人の活動とイスラーム化の進展 遊牧諸勢力の台頭、東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と 社会や文化の特色 モンゴル帝国の興亡と諸地域への影響					
第7章 アジア諸地域の繁栄 1. 東アジア世界の動向 2. 清代の中国と隣接諸地域 3. トルコ・イラン世界の展開 4. ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	7	清朝の動向、東アジア世界の状況 清朝の支配と社会・文化、東アジア世界の動向 トルコ・イラン世界のイスラーム帝国の動向と社会・文化 ムガル帝国とインド社会・文化の変化、東南アジア交易					
第8章 近世ヨーロッパの形成 1. ヨーロッパ世界の拡大 2. ルネサンス 3. 宗教改革 4. ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	8	ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、ヨーロッパ社会の変革の動き 芸術・思想・科学の変革の内容と意義 宗教改革の理念と拡大、カトリック教会の対応 主権国家体制の特色、ヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向					

【基本情報】

教 科	地歴公民科	学 年	2年後期 ～ 3年	教科書	詳説 日本史B（山川出版社）
科 目	日本史B	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	図説 日本史通覧（帝国書院） 要点整理ゼミナール日本史（浜島書店）
科 目 概 要	1 古代・中世における我が国の歴史の展開について、政治や経済、社会、文化、国際環境など各時代の特色及びその変遷に関わる総合的な考察について取り上げていく。 2 学習を通して歴史的思考力を育成し、我が国の伝統と文化についての認識を深めていくとともに、国際社会の中で生きていく思考力・判断力・理解力を養っていく。				
到 達 目 標	1 古代・中世における歴史の流れを理解できる。 2 古代・中世における日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 3 古代・中世における日本史に関する地図・資料を読み取ることができる。				
授業の進め方	1 基本的に、教科書、資料集、プリント等を使いながら重要事項の説明及び板書を中心に講義形式の授業を行う。 2 質問及び歴史に関わる教材の提供を通して、興味や関心を深めていく。 3 アクティブラーニングを念頭において、学んだことや考えたことを表現する場を設ける。				
留 意 事 項	1 授業に必要な教材（教科書、資料集、プリントを綴じるファイル等）は忘れずに毎時間準備する。 2 積極的に授業に参加する。 3 提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。				
家庭学習	1 教科書を読み進める家庭学習を推奨する。 2 参考書、問題集等を復習用として活用していくことを薦める。				
備 考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・歴史の展開に対する関心と、課題意識を高め、意欲的に追求しようとしているか。	10%	・授業中の発表、ワークシート・資料プリントの活用状況を随時点検し、評価する。
B. 思考・判断・表現	・日本の文化と伝統の特色について認識を深めつつ、国際社会の変化を世界史的視野にたって公正に考察できるか。	10%	・授業態度の観察および定期考査において、思考・判断・表現に関する出題をし、評価する。
C. 資料活用の技能	・資料・情報を収集活用し、歴史的事象を追求する方法を身につけられるか。	10%	・授業で活用した様々な資料の読み取りや解釈について、適切にできているかを定期考査において出題し、評価する。
D. 知識・理解	・基本的な事柄を、世界史的視野にたって総合的に理解し、その知識を身につけているか。	70%	・定期考査において、授業で学習した基礎・基本事項の理解度を評価する。

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第Ⅰ部 原始・古代							
第1章 日本文化のあけぼの	20	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳とヤマト政権 	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・創生期からヤマト政権成立期までの歴史の流れを理解できる。 ・ヤマト政権成立期までの日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・創生期からヤマト政権成立期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第2章 律令国家の形成	24	<ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥の朝廷 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・天平文化 ・平安王朝の形成 	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝廷成立期から平安時代初期にかけての歴史の流れを理解できる。 ・朝廷成立期から平安時代初期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・朝廷成立期から平安時代初期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができます。
第3章 貴族政治と国風文化	20	<ul style="list-style-type: none"> ・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士 	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・平安時代中期から武士の台頭期にかけての歴史の流れを理解できる。 ・平安時代中期から武士の台頭期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・平安時代中期から武士の台頭期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができます。

【基本情報】

教 科	地理歴史	学 年	2年 後期～	教科書	新詳地理B（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院）
科 目	地理B	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	新詳地理資料COMPLETE 2020（帝国書院） NEW COMPASS ノート地理 2020（とうほう）
科 目 概 要	「地理B」は、地図の読図や作図などの学習によって身につけた地理的技能や、地球上の各地で生ずるさまざまな事象について、因果関係や地域的特色を分析することで得た知識を活用し、現代社会の諸地域の特色や課題を考察する科目です。				
到 達 目 標	現代社会の地理的事象を系統地理的に考察し、その成果を受けて現代社会の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的な見方や考え方などを身につける。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな地図の読図や作図などの作業的・体験的な学習によって地理的技能を身につけるとともに、世界の環境、資源、産業について学習します。 授業は講義形式で行いますが、効率的にすすめるために毎回ワークシートを中心に進めていきます。 板書事項は専用のワークシートを中心に進めていきます。その際、教科書・資料集・地図帳を使って調べてもらったり、白地図を使って作業をしてもらうことがあります。 毎回、必ず教科書・資料集・地図帳・ワークシートを忘れないようにして下さい。 				
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> 授業の際に配布されるワークシートをファイルに保存し、ノート代わりに使用すること。ワークシートは答えの穴埋めだけでなく、後から見て分かりやすいように、授業で説明した内容なども空きスペースにメモしておくこと。 板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けをします。 忘れ物はしないこと。忘れ物がある場合には事前に申し出ること。 提出物の期限はしっかりと守ること。期限に遅れた場合、減点もしくは0点になる場合があります。 定期考査において、漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して学習するようにして下さい。 教師の発問に対する答えや質問など、積極的に授業に参加すること。 				
家庭 学 習	<ul style="list-style-type: none"> まずは授業を大切にし、毎回の授業の中できちんと内容を理解できるように心がけて下さい。その中で理解が不足していたと思われる分野については、教科書を読むなどの家庭学習で補っておいて下さい。また、定期考査に向けてはしっかり学習して臨んで下さい。 				
備 考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目			
			A	B	C	D
A. 関心・意欲・態度	・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識をもっているか。	20%	・ワークシートの作成内容・提出状況や授業態度等で評価する。			
B. 思考・判断・表現	・現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的・地誌的に考察することができたか。	30%	・原則的に定期考査の中で「思考・判断・表現」にかかる問題を出題する			
C. 資料活用の技能	・地図や統計、画像など地域に関する諸資料から情報を読み取ったり、図表などにまとめたりできたか。	20%	・原則的に定期考査の中で、地図や表・グラフなどを用いた「資料活用能力」にかかる問題を出題する。			
D. 知識・理解	・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解しているか。	30%	・原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関する問題を出題する。			

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第I部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図	6	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな時代の地図について、その特色を学ぶ。 ・地球儀の活用や時差について学習する。 ・地図の種類とそれぞれの特色を学習する。 ・地形図、都市計画図などの特色を学習する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の人々の世界観をとらえることで、現代の地図や身近な地図の有用性に気づくことができる。 ・平面の地図では球面上の情報を正しく表現できないこと、使用目的に応じて図法の異なる世界地図を使うことが理解できる。 ・現代世界に関する統計を地理情報に加工し、分布図や階級区分図などを作成できる地理的技能を習得する。 ・地域調査の目的や方法に適した地図を選択する能力を習得する。

2章 地図の活用と地域調査	4	・地域調査の手順について学習する。	○ ○ ○ ○	・資料の収集・整理、現地調査、考察やまとめ・発表などの活動を通して、生活圏の地域的特色をとらえる能力を習得する。
第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境	18	・規模や成因の違うさまざまな地形を取り上げて、その分布や形成要因から基礎的知識や概念について学習する。 ・地球規模でみた気温・降水量・大気循環、海洋や水の循環を取り上げて学習する。 ・世界の気候区分の方法や世界規模から見た植生・土壤の特色について学習する。 ・日本の自然の特徴と人々の生活について学習する。 ・地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、森林破壊、大気汚染、異常気象を取り上げて学習する。	○ ○ ○ ○	・地形と生活との関連を考察し、地形図の読図に関する地理的技能を習得する。 ・左記の特色や形成成因を考察・理解できる。 ・世界の気候帯の分布や形成要因、気候と人々の生活との関連について考察し、基礎的・基本的知識を習得する。 ・地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴を理解し、防災のあり方についても考察できるようにする。 ・環境問題を大観しながら自然環境の諸問題に関する分布や形成成因を考察・理解できる。
2章 資源と産業	18	・世界・日本の農業、水産業、林業について学習する。 ・世界の食料問題について、発展途上国、先進国、日本の事例をもとに学習する。 ・世界の資源・エネルギーを取り上げ、それぞれの特色や分布、形成要因などについて学習する。 ・現代世界の資源・エネルギー問題について学習する。 ・世界の工業の成り立ち・立地を取り上げ、工業地域の形成と変容について学習する ・世界の交通・情報通信・貿易・商業・観光を取り上げて、それぞれの特色と動向、形成要因について学習する。	○ ○ ○ ○	・世界の農林水産業の特色の分布、形成要因などについて考察し、基礎的・基本的知識を習得する。 ・各国の事例をもとに、世界の食料自給の地域的なかたよりを大観・考察することができる。 ・世界や日本の資源・エネルギー問題を世界的視野に留意して概観し、形成要因を考察できるようにする。 ・世界の資源をめぐる問題・エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題について大観できるようにする。 ・グローバル化する中での世界と日本の工業に関して、世界的視野に留意して、それらの動向・形成要因について考察できるようにする。 ・それぞれの課題に関して、世界的視野に留意して考察することができる。
3章 人口、村落・都市	8	・世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する動向を取り上げて、形成要因について学習する。 ・村落の立地と形態、都市の発達と変容について学習し、村落・都市について基礎的・基本的知識を学習する。	○ ○ ○ ○	・世界の人口増加地域と減少地域の人口問題を比較しながら、日本の人口問題とも関連させて考察できるようにする。 ・世界と日本の居住・都市問題の地域性や形成要因について、世界的視野に留意して考察することができる。
4章 生活文化、民族・宗教	8	・世界の衣食住を取り上げ、それらの分布と特色を理解する。 ・世界の言語と宗教の分布について学習する。生活との関わりについて理解する。 ・民族と国家との関連について学習する。	○ ○ ○ ○	・衣食住の地域的差異と世界的な画一化について、地域性との関連をもとに考察することができる。 ・言語・宗教と生活との関わりについて理解し、宗教と社会との関連を考察することができる。 ・世界的に見た民族と国家の多様性や、日本の領土問題について考察し、国家群や国連の役割が理解できる。
第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分	2	・現代世界が自然、政治、経済、文化などの指標によってさまざまな地域に区分できることを学習する。	○ ○ ○ ○	・多様な区分から現代世界の特色を理解できるようにする。

【基本情報】

教 科	数 学	学 年	2年	教科書	数学Ⅱ Advanced (東京書籍)
科 目	数 学 Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	4 (138+考查 6)	副教材	Hi-PRIME 数学Ⅱ+B (東京書籍) NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B (東京書籍)
科 目 概 要	<p>・数学Ⅱは、数学Ⅰに統いて履修する科目である。数学のもつ基本的な問題の「図形」についてと「関数」についてを扱う。数学では、式を使って推論を進める。そのために、最初に「方程式・式と証明」について学習し、「図形と方程式」で図形の学習を行う。さらに、三角比を拡張した「三角関数」と「指数関数・対数関数」を学び、関数の変化を統一的な方法で調べるための「微分と積分」を学ぶ。</p> <p>①方程式・式と証明 … 3次式、二項定理、整式の除法、分数式の計算を学び、3次以上の整式から分数式へと計算を発展させる。さらに、2次方程式や高次方程式の扱いから、方程式を解くために、数（実数）の範囲を拡張し、複素数という数を導入する。また、証明の方法について学ぶ。</p> <p>②図形と方程式 … 座標軸（x 軸、y 軸）をとることで図形（円、直線等）を方程式として表すことができる。そうすることで、図形の性質を方程式つまり式を計算することで調べることができる。</p> <p>③三角関数 … 数学Ⅰで学んだ三角比を、180 度以上の角度まで拡張することで、波のように繰り返す運動を関数として表し、調べることができる。2次関数（整関数）とは全く違う、大変重要で基本的な関数を学ぶ。</p> <p>④指数関数と対数関数 … 数学のもう一つの重要な関数である指数関数と対数関数について学ぶ。あるときの量に比例して変化するのが指数関数で、その逆となる関数を対数関数という。</p> <p>⑤微分と積分 … 関数の変化を調べる一般的な方法・技術が「微分と積分」である。理数数学Ⅱ（2年次）では、整関数に限定して、その方法と技術を学ぶことになる。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分と積分の考え方について理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、それらを活用することを目標とする。 ・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できることを目標とする。 ・教科書の問、問題、練習問題を解けるようにする。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。 ・単元が終了するときには教科書の練習問題にも取り組む。 ・教科書の「参考」「発展」も学習する。 ・週初めには先週の授業内容の確認のため、「週初めテスト」を実施する。 ・進度によっては単元テスト・節末テストを実施する場合がある。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・ノート（教科書用と問題集用の2冊を用意する）・傍用問題集を忘れずに準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に傍用問題集などに取り組む。 ・参考書は、家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例・問を自力で解き直し、傍用問題集の該当問題を解く。 ・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習するため週末課題に取り組み、参考書を利用し疑問点が残らないようする。 ・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くならないうちに教科担任に質問して解決するようする。 ・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章末の練習問題が理解できるかどうかが1つの目安になる。教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるので、じっくり取り組む。 				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・数学的な活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分と積分における考え方に関心をもつと共に、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	20 %	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） これらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・数学的な活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分と積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付け事象を数学的にとらえ、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。	40 %	
C. 数学的な技能	・数学的活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分と積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できる。	20 %	
D. 知識・理解	・数学的活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分と積分の考えにおける基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。	20 %	

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1章 式と証明	28	整式の乗法と因数分解 二項定理 整式の除法 分数式とその計算 問題 複素数とその演算 解の公式 解と係数の関係 因数分解 簡単な高次方程式 問題 恒等式 不等式の証明 問題	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 3次公式を用いた展開・因数分解の計算ができる。 二項定理を理解し、効率よく計算できる。 整式の除法の意味とその計算を理解し、計算に習熟する。また、分数式の計算を理解し、習熟する。 2次方程式の解としての複素数とその計算を理解し、複素数の範囲で2次方程式を解き、判別式、解と係数との関係について理解、習熟する。 剩余の定理や因数定理を理解し利用することで、3次方程式の因数分解による解法に習熟する。 恒等式の定義を理解し、恒等式の計算に習熟する。 いろいろな等式の証明方法を理解し、恒等式の計算に習熟する。 いろいろな不等式の証明方法を理解し、習熟する。
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
第2章 図形と方程式	25	2点間の距離 内分点・外分点 直線の方程式 2直線の関係 問題 円の方程式 円と直線 2つの円 問題 軌跡の方程式 不等式の表す領域 連立不等式の表す領域 問題	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 内分点、外分点、距離の定義を理解し、求められる。 平面上での直線の方程式を理解し、求められる。 2直線が平行、垂直になる場合の条件を理解する。 平面上での円の方程式を理解し、求められる。 円と直線との共有点、半径と直線までの距離と関係を理解し、円と直線との位置関係に習熟する。 条件を満たす点の軌跡の方程式を理解し、求められる。 不等式の表す領域を理解し、不等式と図示の関係に習熟する。
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
第3章 三角関数	25	一般角 三角関数 三角関数の性質 三角関数のグラフ 三角関数の応用 問題 加法定理 加法定理の応用 三角関数の合成 問題	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 回転で角を表すこと一般角を理解し、弧度法での角の表し方に習熟する。 一般角に対する三角関数の定義を理解し、その相互関係、グラフについて習熟する。 三角関数の変化を理解し、三角方程式、三角不等式の解法に習熟する。 加法定理を理解し、加法定理から2倍角、半角の公式を導き、公式を用いることに習熟する。 三角関数の合成を加法定理との関係から理解し、計算方法に習熟する。
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
第4章 指数・対数関数	25	指数法則 累乗根 指数の拡張 指数関数とそのグラフ 問題 対数とその性質 対数関数とそのグラフ 常用対数 問題	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 指数が整数、有理数、実数に拡張されることを理解し、計算方法としての指数法則に習熟する。 実数を定義域としての指数関数を理解し、方程式、不等式に習熟する。 指数の逆関数としての対数関数を理解し、計算規則に習熟する。 対数関数の特徴を理解し、対数方程式、対数不等式に習熟する。 常用対数を利用して、実際に対数を応用する。
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
第5章 微分法と積分法	35	微分係数 導関数 接線 関数の増減と極大・極小 関数の最大・最小 方程式・不等式への応用 問題 不定積分 定積分 定積分と面積 問題	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 部分係数や導関数の定義を理解し、計算に習熟する。 微分係数が、関数の接線の傾きとして変化率であることを理解し、導関数と元の関数の関係を理解し、増域表を書くことに習熟する。 増域表と関数の変化を理解し、方程式・不等式への応用に習熟する。 微分の逆演算として不定積分を理解し、計算に習熟する。また、不定積分と定積分の関係を理解し、定積分の計算に習熟する。 定積分と面積の関係を理解し、いろいろな面積を求めるに習熟する。
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	
			○	○	○	○	

【基本情報】

教 科	数 学	学 年	2年	教科書	数学B Advanced (東京書籍)
科 目	数 学 B	単位数 (時間予定コマ数)	2 (64)	副教材	Hi-PRIME 数学Ⅱ+B (東京書籍) NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B (東京書籍)
科 目 概 要	<p>・数学Bは、数学Aに続いて履修する科目である。関数についての流れとして「数列」を学び、図形についての流れとして「ベクトル」を学ぶ。</p> <p>①ベクトル…ベクトルとは、風力や風速を表すときに使う矢印といえる。単純にいうと矢印の計算を定義してその風速や風力を計算しようというものである。従ってここでは数の計算ではなくて、矢印（ベクトル）という新しい数の計算とその体系を学ぶことになる。そのベクトルの体系を、ここでは図形の性質を調べるために利用し、特に空間図形に応用することで、その力を発揮させる。</p> <p>②数列 …ある規則性を持った数（量）の列を数列という。その規則性を式で表したり、その表した式を使って積などの新たな量の値を計算することが目的である。差や比が等しい基本的な数列からはじめ、より複雑な関係で表される数列へ、いろいろな数列について学び、それを通じ一般的な数列の扱い方の基本を学ぶ。</p>				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・数列およびベクトルの考え方について理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、それらを活用することを目標とする。 ・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できるようにする。 ・教科書の問、問題、練習問題を解けるようにする。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。 ・教科書の練習問題・章末問題を中心とした演習の時間を確保しながら、「参考」「発展」の内容に触れる。 ・「確認テスト」「単元テスト」「節末テスト」を実施する場合がある。 				
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・B5版ノート（教科書用と問題集用の2冊を用意する）・傍用問題集を忘れずに準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に傍用問題集などに取り組む。 ・参考書は、家庭学習および長期休暇中の講習・課題等で使用する。 				
家 庭 学 習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容を反復しながら、関連する問題を自力で解けるまで練習する。また、傍用問題集の該当問題を解く。 ・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習する。参考書等を利用し疑問点が残らないようにする。 ・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くならないうちに教科担任に質問して解決するようとする。 ・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章末の練習問題が理解できるかどうかが1つの目安になる。教科書や問題集の基礎・基本を確実に身につけ、その考え方を十分に活用し練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組む。 				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・数学的な活動を通して、数列およびベクトルの考え方における考え方に関心をもつと共に、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	20%	1 定期考查・小テスト等 2 提出物全般 3 授業に望む姿勢 4 ペア・グループ学習の活動
B. 数学的な見方考え方	・数学的な活動を通して、数列およびベクトルの考え方における数学的な見方や考え方を身につけ事象を数学的にとらえ、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。	40%	左記のA～Dにおいて、上記4項目を中心に、観点別評価を行う。
C. 数学的な技能	・数学的活動を通して、数列およびベクトルの考え方において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できる。	20%	
D. 知識・理解	・数学的活動を通して、数列およびベクトルの考え方における基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	20%	

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1章 数列	3 2	1節 数列	数列	○	○	○	・数列の概念、数列についての基本的な用語の意味や表し方を理解する。
			等差数列	○	○	○	・等差数列・等比数列の定義を性質を理解し、その一般項や和を求めるに習熟する。
			等差数列の和	○	○	○	・ Σ の性質や公式を理解し、一般的な数列の和を求めるに習熟する。
			等比数列	○	○	○	・階差数列と元の数列の関係を理解し、階差数列から一般項を求めるに習熟する。
			等比数列の和	○	○	○	・数列の帰納的定義について理解し、簡単な漸化式を解くに習熟する。
			和の記号 Σ	○	○	○	・数学的帰納法について、その考え方を理解し、数学的帰納法を用いた証明に習熟する。
			いろいろな数列	○	○	○	
			問題	○	○	○	
		2節 漸化式と 数学的帰納法	漸化式	○	○	○	
			数学的帰納法	○	○	○	
			問題	○	○	○	
第2章 ベクトル	3 2	1節 平面上の ベクトル	ベクトルの意味	○	○	○	・ベクトルに関する基本的な用語、記号、計算方法を理解し、計算に習熟する。
			ベクトルの加法・減法・実数倍	○	○	○	・1次独立である2つのベクトルの1次結合の係数として成分表示の意味を理解し、成分でのベクトル演算に習熟する。
			ベクトルの成分	○	○	○	・位置ベクトルの考え方を理解し、点の位置計算に習熟する。
			ベクトルの内積	○	○	○	・平面上の直線や円のベクトル表示を理解し、ベクトルを用いた図形の処理に習熟する。
			問題	○	○	○	・空間の中での直線・平面の関係を理解する。
		2節 ベクトルの応用	位置ベクトル	○	○	○	・空間の中の点を座標を用いて表すことを理解し、ベクトルを用いた空間での図形的処理に習熟する。
			ベクトル方程式	○	○	○	・空間ベクトルの内積を定義し、図形の計量に応用するに習熟する。
			問題	○	○	○	
		3節 空間における ベクトル	空間における座標	○	○	○	
			空間におけるベクトル	○	○	○	
			位置ベクトルと空間の図形	○	○	○	
			問題	○	○	○	

【基本情報】

教 科	数 学	学 年	2年	教科書	
科 目	S S 数学 II	単位数 (年間予定コマ数)	6 (208)	副教材	数学 II Advanced (東京書籍) 数学 B Advanced (東京書籍) Hi-PRIME 数学 II + B (東京書籍) NEW ACTION LEGEND 数学 II + B (東京書籍)
科 目 概 要	<p>• S S 数学 II は、S S 数学 I に続いて履修する科目である。数学のもう基本的な問題の「図形」についてと「関数」についてを扱う。数学では、式を使って推論を進める。そのために、最初に「方程式・式と証明」について学習し、「図形と方程式」で図形の学習を行う。さらに、三角比を拡張した「三角関数」と「指数関数・対数関数」を学び、関数の変化を統一的な方法で調べるために「微分・積分」を学ぶことになる。そして、関数についての流れとして「数列」を学び、図形についての流れとして「ベクトル」を学ぶ。</p> <p>①方程式・式と証明 … 3次式、二項定理、整式の除法、分数式の計算を学び、3次以上の整式から分数式へと計算を発展させる。さらに、2次方程式や高次方程式の扱いから、方程式を解くために、数（実数）の範囲を拡張し、複素数という数を導入する。また、証明の方法について学ぶ。</p> <p>②図形と方程式 … 座標軸（x 軸、y 軸）をとることで図形（円、直線等）を方程式として表すことができる。そうすることで、図形の性質を方程式つまり式を計算することで調べることができる。</p> <p>③三角関数 … 数学 I で学んだ三角比を、180度以上の角度まで拡張することで、波のように繰り返す運動を関数として表し、調べることができる。2次関数（整関数）とは全く違う、大変重要で基本的な関数を学ぶ。</p> <p>④指数関数と対数関数 … 数学のもう一つの重要な関数である指数関数と対数関数について学ぶ。あるときの量に比例して変化するのが指数関数で、その逆となる関数を対数関数という。</p> <p>⑤微分と積分 … 関数の変化を調べる一般的な方法・技術が「微分と積分」である。理数数学 II（2年次）では、整関数に限定して、その方法と技術を学ぶことになる。</p> <p>⑥数列 … ある規則性を持った数（量）の列を数列という。その規則性を式で表したり、その表した式を使って積などの新たな量の値を計算することが目的である。差や比が等しい基本的な数列からはじめ、より複雑な関係で表される数列へ、いろいろな数列について学び、それを通じ一般的な数列の扱い方の基本を学ぶ。</p> <p>⑦ベクトル … ベクトルとは、風力や風速を表すときに使う矢印といえる。単純にいうと矢印の計算を定義してその風速や風力を計算しようというものである。従ってここでは数の計算ではなくて、矢印（ベクトル）という新しい数の計算とその体系を学ぶことになる。そのベクトルの体系を、ここでは図形の性質を調べるために利用し、特に空間図形に応用することで、その力を發揮させる。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分と積分、数列およびベクトルについて理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習得を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、それらを活用することを目標とする。 重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できることを目標とする。 教科書の問、問題、練習問題を解けるようにする。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。 単元が終了するときには教科書の練習問題にも取り組む。 教科書の「参考」「発展」も学習する。 週初めには先週の授業内容の確認のため、「週初めテスト」を実施する。 進度によっては単元テスト・節末テストを実施する場合がある。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 教科書・B5版ノート（教科書用と問題集用の2冊を用意する）・傍用問題集を忘れずに準備する。 指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に傍用問題集などに取り組む。 参考書は、家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> 復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例・問を自力で解き直し、傍用問題集の該当問題を解く。 週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習するため週末課題に取り組み、参考書を利用し疑問点が残らないようにする。 不明な点が残ってしまった場合には、量が多くならないうちに教科担任に質問して解決するようにする。 大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章末の練習問題が理解できるかどうかが1つの目安になる。教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組む。 				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・数学的な活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分積分、数列およびベクトルにおける考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	20 %	1 定期考查・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） これらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・数学的な活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分積分、数列およびベクトルの分析における数学的な見方や考え方を身につけ事象を数学的にとらえ、論理的に考察すると共に、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。	40 %	
C. 数学的な技能	・数学的活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分積分、数列およびベクトルにおける事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論する技能を身につけ、的確に問題を解決できる。	20 %	
D. 知識・理解	・数学的活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分積分、数列およびベクトルにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	20 %	

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
① 式と証明	28	整式の乗法と因数分解		○	○		・3次公式を用いた展開・因数分解の計算ができる。
		二項定理	○		○		・二項定理を理解し、効率よく計算できる。
		整式の除法		○	○	○	・整式の除法の意味とその計算を理解し、計算に習熟する。
		分数式とその計算		○	○	○	また、分数式の計算を理解し、習熟する。
		問題	○		○		・2次方程式の解としての複素数とその計算を理解し、複素数の範囲で2次方程式を解き、判別式、解と係数との関係について理解、習熟する。
		複素数とその演算	○		○		・剩余の定理や因数定理を理解し利用することで、3次方程式の因数分解による解法に習熟する。
		解の公式	○	○			・恒等式の定義を理解し、恒等式の計算に習熟する。
		解と係数の関係		○	○	○	・いろいろな等式の証明方法を理解し、恒等式の計算に習熟する。
		因数分解		○	○	○	・いろいろな等式の証明方法を理解し、習熟する。
		簡単な高次方程式		○	○	○	・いろいろな不等式の証明を理解し、習熟する。
		問題	○		○		・いろいろな不等式の証明を理解し、習熟する。
		恒等式		○	○	○	・いろいろな等式の証明方法を理解し、習熟する。
		不等式の証明		○	○	○	・いろいろな不等式の証明を理解し、習熟する。
		問題	○		○		・いろいろな不等式の証明を理解し、習熟する。
② 図形と方程式	29	2点間の距離		○	○		・内分点、外分点、距離の定義を理解し、求められる。
		内分点・外分点		○	○		・平面上での直線の方程式を理解し、求められる。
		直線の方程式		○	○		・2直線が平行、垂直になる場合の条件を理解する。
		2直線の関係		○	○		・平面上での円の方程式を理解し、求められる。
		問題	○		○		・円と直線との共有点、半径と直線までの距離と関係を理解し、円と直線との位置関係に習熟する。
		円の方程式		○	○		・条件を満たす点の軌跡の方程式を理解し、求められる。
		円と直線		○	○		・不等式の表す領域を理解し、不等式と図示の関係に習熟する。
		2つの円		○	○		
		問題	○		○		
		軌跡の方程式		○		○	
		不等式の表す領域		○	○		
		連立不等式の表す領域		○	○	○	
		問題	○		○		
③ 三角関数	31	一般角		○	○		・回転で角を表すことで一般角を理解し、弧度法での角の表し方に習熟する。
		三角関数		○	○		・一般角に対する三角関数の定義を理解し、その相互関係、グラフについて習熟する。
		三角関数の性質		○	○		・三角関数の変化を理解し、三角方程式、三角不等式の解法に習熟する。
		三角関数のグラフ		○	○		・加法定理を理解し、加法定理から2倍角、半角の公式を導き、公式を用いることに習熟する。
		三角関数応用		○	○	○	・三角関数の合成を加法定理との関係から理解し、計算方法に習熟する。
		問題	○		○		
		加法定理		○	○		
		加法定理の応用		○	○		
		三角関数の合成		○	○	○	
		問題	○		○		
④ 指数・対数関数	29	指数法則		○		○	・指数が整数、有理数、実数に拡張されることを理解し、計算方法としての指数法則に習熟する。
		累乗根		○		○	・実数を定義域としての指数関数を理解し、方程式、不等式に習熟する。
		指数の拡張		○		○	・指数の逆関数としての対数関数を理解し、計算規則に習熟する。
		指数関数とそのグラフ		○		○	・対数関数の特徴を理解し、対数方程式、対数不等式に習熟する。
		問題		○		○	・常用対数を利用して、実際に対数を応用する。
		対数とその性質		○	○	○	
		対数関数とそのグラフ		○	○	○	
		常用対数		○	○	○	
		問題	○		○		
⑤ 微分法と積分法	32	微分係数		○	○		・微分係数や導関数の定義を理解し、計算に習熟する。
		導関数		○	○		・微分係数が、関数の接線の傾きとして変化率であることを理解し、導関数と元の関数の関係を理解し、増減表を書くことに習熟する。
		接線		○	○		
		関数の増減と極大・極小		○	○		

3 節 積分法		関数の最大・最小 方程式・不等式への応用 問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・増減表と関数の変化を理解し、方程式・不等式への応用に習熟する。
		不定積分 定積分 定積分と面積 問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・微分の逆演算として不定積分を理解し、計算に習熟する。 また、不定積分と定積分の関係を理解し、定積分の計算に習熟する。 ・定積分と面積の関係を理解し、いろいろな面積を求めることに習熟する。
⑥ 数列 1 節 数列	3 1	数列 等差数列 等差数列の和 等比数列 等比数列の和 和の記号 Σ いろいろな数列の和 問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・数列の概念、数列についての基本的な用語の意味や表し方を理解する。 ・等差数列・等比数列の定義を性質を理解し、その一般項や和を求めることに習熟する。 ・ Σ の性質や公式を理解し、一般的な数列の和を求めることに習熟する。 ・階差数列と元の数列の関係を理解し、階差数列から一般項を求めることに習熟する。
		漸化式 数学的帰納法 問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・数列の帰納的定義について理解し、簡単な漸化式を解くことに習熟する。 ・数学的帰納法について、その考え方を理解し、数学的帰納法を用いた証明に習熟する。
⑦ ベクトル 1 節 平面上のベクトル	2 8	ベクトルの意味 ベクトルの加法・減法・実数倍 ベクトルの成分 ベクトルの内積 問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・ベクトルに関する基本的な用語、記号、計算方法を理解し、計算に習熟する。 ・1次独立である2つのベクトルの1次結合の係数として成分表示の意味を理解し、成分でのベクトル演算に習熟する。
		位置ベクトル ベクトル方程式 問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・位置ベクトルの考え方を理解し、点の位置計算に習熟する。 ・平面上の直線や円のベクトル表示を理解し、ベクトルを用いた図形の処理に習熟する。 ・空間の中での直線・平面の関係を理解する。
2 節 ベクトルの応用						・空間の中の点を座標を用いて表すことを理解し、ベクトルを用いた空間での図形的処理に習熟する。
3 節 空間におけるベクトル		空間における座標 空間におけるベクトル 位置ベクトルと空間の図形 問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・空間ベクトルの内積を定義し、図形の計量に応用することに習熟する。